



定員26人 津波シェルター

下関の船舶製造会社開発

船舶製造メーカーのニシエフ(本社・山口県下関市豊北町、堀井淳社長)が、

救命艇を応用した「津波対応避難シェルター」を開発し、25日、報道陣に公開した。写真。定員は成人で26人。同社によると、東日本大震災後、数人が入る津波シェルターは開発されたが、これほどの人数を収容できるのは国内初という。ガラス繊維強化プラスチック(FRP)製で、全長6.5メートル、幅2.6メートル、高さ2.8メートル。外壁は2重構造、内壁をクッション材で覆って安全性を高めた。高さ10メートルから海面に落ちて

耐え、強い揺れから内部の人を保護できるという。1週間漂流しても足りる程度の食料や水、医薬品などを格納できる。

今年1月、南海トラフ地震で高さ10メートルの津波被害が想定されている静岡県浜松市西区の「さざんか保育園」(園児115人、職員40人)が「子供の命を津波から守りたい」とニシエフに相談。同社が商船搭載用の救命艇製造のノウハウを応用して開発した。既に同保育園は2基を発注している。堀井社長は「子供を守りたいという真摯な姿勢に感銘を受けた」と話す。今後、注文に応じて製造するとい

【平川昌範、写真も】